

平成 25 年度

磐田市協働のまちづくり推進事業報告

市民部市民活動推進課

目次

- 1 市民等の意識の醸成及び啓発に関すること
・・・ 1
- 2 相談窓口の充実及び活動機会の提供に関すること
・・・ 4
- 3 情報交換、評価の仕組み及び市民等の参加の仕組みに関すること
・・・ 10
- 4 人材育成、支援制度及び活動拠点の確保に関すること
・・・ 13
- 5 その他協働のまちづくりの推進に関し必要なこと
・・・ 15
- 6 職員の協働のまちづくりに対する意識を高め、
組織体制の整備及び連携の強化に関すること ・・・ 15

1 市民等の意識の醸成及び啓発に関すること

事業名：広報紙発行

1 広報いわた（全戸配布）

協働に関する情報を年4回掲載した。

- (1) 協働のまちづくり提案事業募集【4月号】
- (2) 市民活動センターが実施している相談、講座、会員サービスの紹介など【6月号】
- (3) 協働のまちづくり及び提案事業の説明と平成25年度実施事業の紹介・参加者募集など【9月号】
- (4) 市民活動フェスタのお知らせ、協働のまちづくり提案事業報告会・あなたにもできる市民活動(市民活動の説明)【2月号】

2 市民活動センター通信（全戸配布・のっぽ、ともりあ通信）

市民及び市民活動団体を対象に、市民活動センターが実施する事業の紹介やまちづくりに関する知識などの情報を掲載し、年3回発行した。

- (1) 「第1回みんなの活動応援講座」実施報告、NPOとボランティアの説明、利用登録団体の紹介、協働のまちづくりの説明、市民活動センターからのお知らせなど【8月号】
- (2) 市民活動パネル展、みんなの活動応援講座及びのっぽ情報交換会の実施報告、利用登録団体の紹介、協働のまちづくりの説明、市民活動センターからのお知らせなど【11月号】
- (3) 市民活動フェスタのお知らせ及び出展団体紹介、利用登録団体の紹介、市民活動センターからのお知らせなど【3月号】

3 市民活動センター情報紙（市民活動センター登録団体及び市窓口に配布）

市民活動団体への情報提供を目的として、毎月発行した。

市民活動センターの講座をはじめ、助成金や登録団体の活動情報を掲載し、市民活動センター登録団体や市の窓口に配布、配架した。

【成果】提案事業実施団体(4団体)のうち、1団体が広報いわた4月号の協働のまちづくり提案事業募集記事を見て応募した。また、みんなの活動応援講座についても、市民活動センター通信8月号を見て、5人が参加した。

【課題】周知する対象を明確に定め、情報を効果的に広報していく。

事業名：ホームページ管理運営

磐田市ホームページへ協働に関する情報を掲載した。

【新規掲載内容】

- ・協働啓発資料（パンフレット、リーフレット、手引き）
- ・市民活動団体一覧
- ・市民活動団体データベース

【成 果】市民団体一覧掲載後から「ホームページを見た」・「団体活動に参加したい」・「団体の活動内容をもっと知りたい」・「ボランティアとして参加したい」との問い合わせが来るようになった。

【課 題】NPO法人一覧、市民活動団体一覧などについて、常に最新の情報を掲載する。

事業名：協働・まちづくり出前講座

市民活動団体及び事業者へ協働のまちづくりに関する出前講座を実施した。

(1)磐田地区労働者福祉協議会定例会（35人参加）

講師：市民活動推進課 職員

協働による事業者の社会貢献活動について、まち美化パートナーなどの事例を交えた説明を行った。

(2)NPO法人サンサンいわた職員研修（40人参加）

講師：市民活動センター センター長

「まちづくりを通じた地域に溶け込むための方法」と題し、社会貢献活動を通じ、地域の障害者施設に対する理解を求める方法を紹介した。

出前講座

区分	H.22	H.23	H.24	H.25
開催回数(回)	2	7	4	2
延参加者数(人)	不明	340	170	75

【課 題】今年度の出前講座も、申し込みがなかったため団体や事業所へ受講を依頼して実施した。市民や自治会、団体からの出前講座申し込みは4年続けて依頼が0件であった。市民、市民活動団体、事業者それぞれのニーズに対応した講座を企画する。

事業名：市民活動パネル展

市民活動センター登録団体の活動を紹介するパネル展を開催した。

(1) 磐田市情報館（ららぽーと磐田）

市民活動センター利用登録団体のうち、展示希望のあった 16 団体の活動紹介パネル展示を行った。

また、3 団体が団体の P R 活動を行い、11 日間（8 月 16 日～26 日）で 26,948 人が来場した。

来場者が気に入った活動に「いいね！」シールを貼ってもらう試みを実施し、582 のシールが貼られた。

【P R 活動団体】

- ・ N P O 法人サンサンいわた（事業紹介、しっぺい缶バッジ作成）
- ・ 子どもの健康と環境を考える会（事業紹介、紫外線ビーズ作成）
- ・ 磐田年金受給者会（会員募集）

(2) 福田公民館

活動紹介パネルを作成している市民活動センター利用登録団体（41 団体）のパネル展を開催した。24 日間（10 月 1 日～29 日）で 889 人の来場者があった。

【成 果】ららぽーと磐田の会場では、昨年度までは市民活動センターにあるパネルを全て掲示していたが、今年度から希望する団体のみ掲示とした。このことにより、展示スペースが広がり、チラシや写真の掲示などパネル以外の P R が充実し、来場者にじっくりと見てもらうことができた。

【課 題】市内各地区でパネル展を実施し、団体活動の P R を広げていく。

パネル展

区分	H.22	H.23	H.24	H.25
開催回数	4	4	2	2
団体数（磐田情報館分）	—	36	37	16
団体数（福田公民館分）	—	—	—	41

事業名：調査結果のデータベース化（重点事業）

【実施内容】

市民活動団体実態調査の結果から、140 団体を超える市民活動団体の活動内容が分かる団体一覧及びエクセルデータを作成した。

【成 果】団体の活動内容やデータベースへの掲載希望について問い合わせが来るようになった。

【課 題】掲載団体の情報は常に最新なものに更新し、有用なデータとする。

事業名：協働啓発資料の活用（重点事業）

【実施内容】

1 啓発資料

- (1) リーフレット：窓口で配架、イベントで配布
- (2) パンフレット：出前講座の資料
- (3) 手引き：協働の相談、提案事業の計画時に使用

2 市民活動団体一覧・市民活動団体データベースを市ホームページへ掲載

- (1) 市民活動団体一覧：各窓口に閲覧用として配置
(各公民館、各支所、市民活動センター、市民活動推進課)
- (2) データベース：市民活動団体一覧の情報を簡単に加工できるエクセルデータで掲載

【成 果】啓発資料（手引き）により協働のポイントや手順を説明することで、相談者からの理解を深めることができた。

市民活動団体一覧については、配布先や「ホームページを見た」と問い合わせが入るようになった。

2 相談窓口の充実及び活動機会の提供に関すること

事業名：協働・まちづくり相談

市民活動推進課及び市民活動センターで、まちづくりに関する相談を受け付けた。

【相談傾向】

- ・市：協働のまちづくり提案事業、協働の方法について
- ・センター：NPO法人化や事業の内容、進め方について

相談受付件数（市：実数、センター：述べ件数）

区分	H.21	H.22	H.23	H.24	H.25
市受付件数(件)	—	—	—	19	18
センター受付件数(件)	121	102	148	165	84
各支所受付件数（件）	—	—	—	—	0

- 【成果】「市」：団体・NPO・ボランティアなどの相談が増えてきた。
「センター」：NPOの法人化、運営に関する相談が全体の約3割をしめている。
- 【課題】「市」：NPO法人化についての相談スキルがないため、県や市民活動センターへ確認しながら行っている。
平成27年度から権限移譲によりNPO法人認証事務を開始する。
「センター」：相談件数は減少しているが、それは団体の活動が安定していると思われる。継続的なサポート体制を維持していく。

事業名：協働のまちづくり提案事業

【提案事業内容】

1 事業名『世代をつなげた協働による食育から

「優しさとふれあいと支えあいの健康長寿のまちづくり」

- (1) 実施者 NPO法人こどもの森、健康増進課
- (2) 内容 ファッションや美容への興味が高まり、ダイエットや偏食などにより、食生活が乱れやすい傾向にある高校生を対象として、野菜の収穫や食事のマナー、伝統文化などを通じた「食育と調理実習による講座」を実施した。
- (3) 成果 地元野菜の収穫を体験や、調理のプロと料理を作り、自分たちの食生活を見直した。また、伝統的な「おせち料理」についても学んだ。すべての講座で、食に対する意識を高めることができた。

2 事業名『憧れの大人プロジェクト』

- (1) 実施者 キャリア教育研究所ドリームゲート、商工観光課
- (2) 内容 未来の磐田市を担う子どもたちに、さまざまな大人との交流を通じ、大人になることや将来の仕事に夢を持ってもらうことを目的として、職業観の育成企画「お仕事体験！わくわくワーク」と「特別講師による就労・起業啓発出前講座」を実施した。
- (3) 成果 小学生が実際の職場を体験し、働くこと、地域の仕事への興味を深めた。職場での体験をもとに、働くことに必要なことは何かを考える貴重な機会となった。

また、協力いただいた事業者の方たちからも今後の企画の広がりや、協力事業者の増加を望む声が上がった。

3 事業名『正しい知識でペットと暮らそう～愛犬手帳の改善と活用に取り組む～』

- (1) 実施者 いわた動物愛護協議会、環境課
- (2) 内容 愛犬手帳の改訂（所有者明示の方法：飼い犬への名札、鑑札、予防注射済証の装着）や啓発ポスターの作成により、飼い主の義務や正しい飼い方、飼い犬を迷子にしない方法を周知した。
- (3) 成果 環境課と検討を重ね、愛犬手帳の内容を充実し、補足内容のパンフレットを作成した。啓発ポスターもデザインの専門家にアドバイスを受けて作成し、多くの場所（公共施設、動物病院、ホームセンター、ペットショップなど）に掲示することで、市民へペットの適正飼育・所有者明示の必要性について啓発することができた。

事業名：協働のまちづくり提案事業

4 事業名 インターナショナルフォーラム2013

- (1) 実施者 磐田市国際交流協会、市民活動推進課
- (2) 内容 外国人市民と日本人市民の間にある「言葉や文化の違い」という壁をなくして、誰もが安心して暮らせるまちを実現させるため、関係機関が協力して、2月にフォーラムを開催した。
- (3) 成果 シンポジウムでは、自らの体験をもとに多文化共生について若者の意見を聞くことができ、団体活動の紹介では新たな出会いの場を提供した。アンケートから、「日本語スピーチ、意見交換が印象に残った」、ボランティアからは「外国人の方と一緒に長い時間過ごせた」「貴重な体験ができた」と、感想があった。
そして、世界の料理では多くの来場者の関心を集め、外国人市民と日本人市民が触れ合うことができた。来場者数はおよそ700人となった。

【成果】市民活動フェスタで提案事業報告会を行ったことで、多くの市民活動団体の提案事業の報告及び提案事業を周知することができた。

また、提案事業実施団体の追跡の結果、団体としての活動の広がりや行政との連携が継続していることが分かった。

【課題】提案事業件数が減少している。

提案事業件数

区分	H.21	H.22	H.23	H.24	H.25
申請数	6	7	7	5	4
採択団体数	6	7	5	4	4
不採用・辞退	0	0	2	1	0

事業名：まち美化パートナー制度

【道路河川課】

- ・同じ地域でまち美化パートナーとして活動していた企業、自治会、小学校PTAが、協働での草刈り、ゴミ拾いなどの活動を行い、約60人が参加した。
- ・静岡県トラック協会中遠支部による国道1号バイパス側道のゴミ拾いを行い、約120人が参加した。国土交通省の職員も参加し、終了後に中部地方整備局長表彰（国土交通省）を受けた。
- ・まち美化パートナー加盟事業所である磐田化学工業㈱、日本アルコール産業㈱、高砂香料㈱、高砂珈琲㈱が、地域の祭典の翌日にゴミ拾いを行い、約50人が参加した。
- ・長野地区長を中心に13自治会が参加し、橋脚の長寿延命化を目的に、長野地区5橋の土砂撤去作業を行なった。（長寿延命化の計画外の橋）
- ・神明中学校2年生（126名）がゴミ拾いをしながら史跡を訪れ、歴史学習会の実施を行った。住職から地区の歴史を聞き、郷土愛を養う体験となった。（神明中学校、磐田観光ボランティア、連城寺）

【都市計画課】

- ・一番町公園では、複数の団体による美化活動が行われており、自治会組長会がトイレ清掃、老人会い組会と趣味クラブ（グラウンドゴルフ）がグラウンド清掃・除草、花壇整備を行っている。
- ・市内にある258カ所の公園のうち、48カ所がまち美化パートナーによって管理されている。

【環境課】

- ・平成19年から累計1,000枚を超える「不法投棄監視中」のマグネットシート、ステッカーを支給した。新聞店やタクシー会社をはじめ、多くの事業所が、不法投棄監視パトロールを行っている。
- ・霊園の管理清掃業務を行う団体が立ち上がったため、必要な物品、用具等の支給・貸与及び活動区域内に団体名を記した看板の設置などを行った。
- ・多様な事業者のパトロールの実施により、不法投棄の抑制が図られている。

登録団体数（件）

区分	H.21	H.22	H.23	H.24	H.25
道路河川課	96	111	116	121	124
都市計画課	39	43	45	48	48
環境課	21	30	39	44	47

事業名：地域づくり推進事業費補助金（自治防災課）

【市の委託事業に準ずる整備事業】（5団体）

・南御厨地区水辺の里を創造する会

平成 15 年に南御厨地区の自治会長により、荒れ果てていたカワバタモロコ保護池を住民の手で整備管理する「水辺の里」構想を立ち上げ、地域の多様な団体に了承を得た。

平成 16 年から当補助金を受け、丸太による土止めなどの整備を行い、魚が泳ぎ、季節の花が咲く水辺の憩いの場になった。

また、夕涼みフェスタなど地域のイベントも行われている。

現在の活動は、橋の手摺や土止めの補修、花壇の手入れ、草刈りを行い、毎年延べ 200 人を超える住民が参加している。

・ひょうたん池自然を考えよう会

ひょうたん池及びその周辺の自然を守り「自然を生かし自然と戯れ、何時でも心の安らぎを与えてくれる市民の憩いの場」をつくることを目的に、安久路川堤防の草刈り、池周辺の草刈り及び池内の藻取り、池及び水路の護岸補修を行っている。

また、子どもたちが学習できる自然環境づくりとして、蛍の幼虫の飼育及び餌となるカワニナの繁殖に取り組んで、蛍の里づくりを行っている。

【地域の独自事業】（30 団体）

・池田地区コミュニティ会

地区住民による組織活動を通して、地区住民の融和を図り、住みよい住環境の構築を目的とした活動を実施している。地区住民から年会費（600 円/世帯）を徴収し、盆踊りや通学合宿、新年の集いなどのイベントをはじめ、コミュニティだよりを毎月発行し、地域の交流を深めている。

・東新横丁

外国人が多く居住する地区で、朝市を毎月 1 回開催している。高齢者に対しての配達サービスや健康体操などを通じて外国人を含めた地域交流を進めている。

補助団体数

区分	H.21	H.22	H.23	H.24	H.25
団体数（件）	42	41	35	37	35

3 情報交換、評価の仕組み及び市民等の参加の仕組みに関すること

事業名：市民活動フェスタ（重点事業）

協働シンポジウムと協働のまちづくり提案事業報告会を統合した「市民活動フェスタ2014」を開催。市民活動団体の交流会や、磐田市出身アーティストのミニライブ、市民活動団体による体験コーナー・販売コーナーに約300人の市民が参加した。

【市民活動フェスタ概要】

日時 平成26年3月23日（日） 午後1時から4時30分

場所 iプラザ（総合健康福祉会館）

2階 ふれあい交流室1～3

内容 第1部 『協働のまちづくり提案事業報告会』

・パネルディスカッション「協働のまちづくりをとおして」

コーディネーター：東海大学教授 河井孝仁氏

パネリスト：提案事業実施団体 NPO 法人こどもの森

キャリア教育研究所ドリームゲート

いわた動物愛護協議会

磐田国際交流協会

担当課

健康増進課

商工観光課

環境課

市民活動推進課

第2部 『市民活動団体交流会』

・市民活動団体との交流会（20団体参加）

【成果】第1部

多くの市民活動団体及び市民に協働のまちづくり提案事業の報告と、パネルディスカッションを聞いてもらうことができた。

第2部

市民活動団体へ、市民に活動を伝える場を提供することができた。

【課題】時間の設定（報告会の時間）や、会場の大きさ（交流会時の団体スペース）等に意見があった。

事業名：視察研修

市民活動センターの運営や市民活動団体の活動、運営の参考とするため、視察研修を行い、磐田ジュニアホステリングクラブ、NPO法人磐田体育協会、磐田ボランティア連絡協議会、磐田市社会福祉協議会などから8人が参加した。団体の運営、他団体や事業所との連携、ネットワークづくりなどに関する活動を伺い、参加団体からは「今後の団体運営の参考になった」との感想を聞くことができた。

【視察先】

- 1 ふじのくに西部NPO活動センター
- 2 浜松市市民協働センター
- 3 NPO法人地域生活応援団あくしす
- 4 NPO法人クリエイティブサポートレッツ

※ 県内の市民相談センターへの視察はほぼ終了した。他市のセンターとの交流の機会も増えたため、平成26年度は実施しない

事業名：まちづくりサポーター制度

まちづくりを実施する団体とまちづくりに参加したい市民をコーディネートした。

まちサポ活動一覧

参加イベント	内容	参加人数	募集人数
いわた大祭り 「遠州大名行列舞車」	オープニング手伝い、 ステージ手伝い、警備	4人	多数
国分寺まつり 2013in 遠江	ステージ設営、本部運営	2人	6人
向笠竹之内祭典	半紙への毛筆書き	1人	特定
わっしょいフェスタ	イベント補助	1人	10人
森林サイクリング in いわた&森	受付、道案内	5人	2人
全国高等学校女子サッカー選手権大会	受付、案内	2人	多数
上質紙回収	車の誘導、積み込み	44人	多数
第11回 ツールド いわた	受付、道案内、接待など	0人	5人
敬老会	大藤3区自治会	0人	特定

【まちづくりサポーターの感想】

自分の特技を生かす場所を与えていただいて感謝している。

【依頼団体の感想】

毎年、人手不足で「まちサポ」に甘えてしまっている。大変助かっている。

【課題】

申請件数、活動人数ともに減少している。他市のボランティア募集方法などを参考に社会福祉協議会と一緒に見直しをする。

事業名：まちづくりサポーター制度

区分	H.21	H.22	H.23	H.24	H.25
活動件数(件)	20	20	29	16	7
活動人数(人)	94	58	170	93	59

4 人材育成、支援制度及び活動拠点の確保に関する こと

事業名：みんなの活動応援講座

市民活動団体支援に関する各種講座を開催。

市民活動団体実態調査により把握した「会員不足」や「活動資金不足」などの課題に対応した講座を企画した。

【講座内容】

講師：プロセスコンサルタント 守本 尚子 氏

1回目「手応えのある情報発信の記号」(参加者 13人)

【受講者の感想】

- ・「誰に何を伝えたいのか」情報発信の基本を再確認できた。
- ・PRする対象者について考えるいい機会になった。

2回目「打率を上げる資金調達の道具」(参加者 21人)

【受講者の感想】

- ・「助成する側の立場になって募集要項を読み解く」というところで、自分本位で申請していたことに気が付いた。

3回目「スマートな仲間づくりの合い言葉」(参加者 12人)

【受講者の感想】

- ・自分たちの活動に不足していたことがよく分かった。もっとみんなで意見を出し合う場を作り「自分が活動している会」だと思えるようにしたい。

4回目「ムリなく広げるネットワークづくりのキーワード」(参加者 19人)

【受講者の感想】

- ・会の目標を改めて考えていく機会を得られてよかった。情報発信の方法やいろいろなヒントをもらった。

応援講座参加述べ人数

区分	H.21	H.22	H.23	H.24	H.25
参加者数(人)	不明	83	48	39	65

【成果】団体の課題に対応した講座であり、受講者のアンケートから「団体の運営を見直すよい機会となった。」の意見などから、満足度は高いと感じた。

【課題】参加者を増やすため、講座の内容やPRの方法について検討が必要である。

事業名：ミーティングスペース及び作業スペース提供

市民活動センター登録団体へミーティングスペース及び印刷・作業スペースを提供した。

【提供サービス（会員）】

- ・会議室 ミーティングスペース、交流スペース など
- ・印刷製本機器 印刷機、帳合機、裁断機、紙折り機 など
- ・機器貸出 プロジェクター、スクリーン など

市民活動センター利用状況

区分	H.21	H.22	H.23	H.24	H.25
登録団体数(団体)	111	117	145	174	192
総利用者数(人)	5,714	4,627	5,012	4,953	3,798
ミーティングスペース 利用者数(人)	2,683	1,787	1,677	1,830	732
印刷利用者数(人)	1,397	1,235	1,682	1,441	1,508

【課題】総利用人数とミーティングスペース利用者が大幅に減少したため、市民活動センターを利用するメリットを登録団体へ周知する必要がある。

利用場所が豊田支所会議室や、ともしあとの共有スペースへ分散したことも考えられる。特に共有スペースについては、申し込み窓口が「ともしあ」・「センター」にあり、今まで「センター」へ申し込んでいた団体が「ともしあ」経由で申し込んでいることも考えられる。

また、豊田支所に隣接した「豊田コミュニティセンター」へも利用が移行したと考えられる。(土曜・日曜 夜間 21:30 までの利用可能なため)

5 その他協働のまちづくりの推進に関し必要なこと

事業名：協働のまちづくり推進委員会

磐田市協働のまちづくり推進条例第8条に基づき、協働のまちづくり推進に関する事項を調査審議した。

- 6月10日（月） 平成24年度事業報告・平成25年度事業計画
- 11月14日（木） 平成25年度事業中間報告
- 3月10日（月） 平成26年度事業計画（案）

6 職員の協働のまちづくりに対する意識を高め、組織体制の整備及び連携の強化に関すること

事業名：ワーキングチーム

各部局及び支所協働担当者による協働推進ワーキングを実施した。ホームページの内容検討や、啓発資料、データベースの活用方法を検討した。職員の研修報告より、業務に活用できる実践的な講座が望まれていることが分かった。

事業名：職員研修

1 一般職員

各課職員約 60 人を対象に、協働意識を醸成する講座を行った。(12月13日)

【研修内容】

- ・「協働ってなに？つながりつなげて可能性は無限大」

講師：ふじのくに西部NPO活動センター

副センター長 今村哲郎 氏

【結果】協働を理解しても、業務に取り入れる方法や、ふさわしい業務がないと感じている職員が多くいた。

【課題】アンケートから、協働を推進するために必要なことは庁内の情報共有（64.5%）、団体・事業者との情報交換（67.7%）と意見がでた。職員から協働を働きかける姿勢も必要。

研修内容の理解度 ※理解度は「5」が最大値

区分	H.21	H.22	H.23	H.24	H.25
参加者数(人)	120	49	55	57	60
理解度	—	—	—	3.7	4.3

2 若手職員

各部局の若手職員(11名)を対象とした協働研修を実施した。

- (1)「協働ってなに？つながりつなげて可能性は無限大」〔理解度 3.9〕

参加者：6名 平成25年12月13日（金）実施

- (2)「協働を体験するワークショップ」〔理解度 4.5〕

参加者：10名 平成26年1月30日（木）実施

【受講生の感想】

- ・職員の意識改革、少しの気づきが協働へのポイント
- ・自由な発想、広い視野が必要
- ・このようなワークショップの積み重ねが職員の力となる

- (3)「平成26年度協働のまちづくり提案事業報告会」〔理解度 4.5〕

参加者：8名 平成26年3月23日（日）実施

【受講生の感想】

- ・パネルディスカッションによって、発表の内容がイメージしやすく、興味深く感じた。
- ・これからの業務の中で協働を意識して「まずやってみる」ことが大切だと感じた。

【成果】3回の研修で協働への関心・理解を深めることができた。〔理解度 4.2〕

【課題】アンケートから「協働を体験したい」「自らの業務に取り入れる方法を知りたい」など、より実践的な内容が求められた。